

AIが予測する2024年の米国金利の衝撃

～AI予測は日本経済にどのような影響をもたらすのか？～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

1. 米国金利が日本経済に与える影響

金利は、経済活動や金融市場に大きな影響を与える重要な指標である。特に、世界経済の中心的存在であるアメリカの金利は、グローバル経済の動向を左右する要因の1つとして注目されている。米国の金利上昇は、ドル高・円安を引き起こし、日本の輸出企業の収益を押し上げる一方で、輸入価格の上昇を通じて国内のインフレ圧力を高める。また、米国債などの外貨建て資産の魅力が高まることで、日本からの資金流出を招き、国内金融市場の不安定化につながるリスクもはらんでいる。

アメリカの代表的な金利としては、連邦準備制度理事会（FRB）が決定する政策金利であるフェデラルファンド金利（FF金利）と、市場で取引される米国債の利回りがある。FF金利は、金融機関同士が一晩だけ資金を貸し借りする際の金利であり、FRBが金融政策の運営目標に用いている。一方、米国債利回りは、投資家のリスク選好度や経済見通しを反映して変動する。FF金利の変更は米国債利回りにも影響を及ぼすため、両者は密接に関連している。

近年、金利が経済に与える影響の大きさから、AIを用いた金利の将来予測に注目が集まっている。AIは大量のデータを分析し、複雑な経済指標の関係性を学習することで、高い精度での予測を可能にすると期待されている。本稿では、AIによる米国金利の予測手法とその有効性について考察し、日本経済への示唆を探る。

2. AIによる米国金利の予測実験

AIを活用した米国金利予測は、「過去のチャート分析」と「楽観シナリオ、悲観シナリオにもとづく予測」の2つの工程に大別される。

まず、「過去のチャート分析」工程で、2000年からの米国金利のチャートをAIに読み込ませ「米国金利のチャート分析をお願いします」と指示したところ、AIはその米国金利チャートを解析したうえで、2000年から2024年の期間を6つに分解し、それぞれの期間ごとの当局の政策、環境、金利動向に関する分析を行った。分析の最後のまとめとして、「金融危機や景気後退局面では大幅利下げ、景気過熱局面では利上げが行われる傾向にあります。足元の金利水準は歴史的に見ても高い部類に入りますが、インフレ抑制のためにさらなる利上げも想定されます」と洞察している（図表1）。

図表 1 AI が過去の米国金利チャートを読みこみ洞察した結果



資料: Claude3 より筆者作成

次に、今後の楽観シナリオにもとづく米国金利を予測するため、はじめにAIを活用して楽観シナリオの作成を行った（図表 2）。

図表 2 AI が作成した 2024 年の楽観シナリオ

経済成長の持続

2024年の世界経済は、多くの先進国と新興国で安定した成長が期待されます。国際通貨基金（IMF）は、2024年の世界経済成長率を3.2%と予測しており、これは前年の見通しからわずかながら上方修正された数値です¹⁶。米国は特に強い成長を見せ、その経済活動の活発さが世界経済にプラスの影響を与えると見られています¹⁴。

インフレの鈍化と金融政策の正常化

インフレ率は世界的に鈍化する傾向にあり、多くの国で中央銀行のインフレ目標に近づいています。これにより、金融政策は徐々に正常化され、市場は安定した金利環境を享受することができるでしょう¹⁹。また、米国の金融政策は景気抑制的な水準から緩和に向かう可能性があり、これが市場に安心感を与える要因となります¹⁵。

テクノロジーとデジタルトランスフォーメーションの進展

テクノロジー企業は、AIやデジタルトランスフォーメーションを推進することで新たなビジネスモデルを創出し、経済全体の生産性向上に寄与します¹。これにより、企業の効率化が進み、経済成長の一助となることが期待されます。

地政学的リスクの低減

地政学的な緊張が緩和されることで、国際貿易や投資が活発化します。特に、米中関係の改善が見込まれれば、世界経済にとって大きなプラスとなるでしょう²⁹。また、中東地域の安定も世界のエネルギー供給の安定に寄与し、経済活動の支障を減少させる可能性があります。

持続可能な開発と環境政策の推進

世界各国が気候変動対策に本腰を入れることで、持続可能な開発が進みます。再生可能エネルギーの導入拡大や環境に優しい技術の開発が進むことで、経済活動が環境負荷の少ないものへとシフトしていくでしょう¹⁹。

総括

これらの楽観的なシナリオが現実のものとなれば、2024年の世界は経済的にも政治的にも安定した一年となる可能性が高いです。持続可能な成長と技術革新が手を取り合い、より豊かで平和な世界を実現するための基盤が築かれることを期待します。

資料:perplexity より筆者作成

このAIが作成した2024年度の世界経済の持続、インフレの鈍化、テクノロジーの進展、地政学リスクの低減、環境政策の推進に関する楽観シナリオを改めて読み込ませたうえで、「楽観シナリオにもとづき2024年6月末、9月末、12月末の米国金利を予測してください」と指示したところ、AIは、前提条件として「予測はあくまでも楽観シナリオに基づいており、実際の金利動向は経済指標や地政学的リスクなど様々な要因に左右されます。予期せぬショックや市場の期待の変化により、金利予測とは異なる展開となる可能性もあることに注意が必要です」とし、2024年6月末4.50%-4.75%、2024年9月末4.25%-4.50%、2024年12月末4.00%-4.25%という予測を算出した（図表3）。

図表 3 AI が楽観シナリオにもとづき米国金利を予測した結果

2024年の世界経済の楽観シナリオに基づき、米国の政策金利（フェデラルファンド金利）の予測を以下の通り行いました。

1. 2024年6月末の米国金利予測：4.50% - 4.75%

- インフレ率が着実に低下し、FRBのインフレ目標である2%に近づきつつあります。
- 経済成長は堅調ながらも、過熱感は徐々に和らいでいます。
- FRBは金融政策の正常化を進める中で、金利を現在の水準からわずかに引き下げる可能性があります。

2. 2024年9月末の米国金利予測：4.25% - 4.50%

- インフレ率は目標の2%近辺で安定し、物価上昇圧力は限定的になっています。
- 米国経済は潜在成長率近くで推移しており、金融政策はニュートラルな状態に近づいています。
- FRBは景気の安定性を重視し、緩やかな金利引き下げを継続すると予想されます。

3. 2024年12月末の米国金利予測：4.00% - 4.25%

- インフレは完全に制御され、物価は安定しています。
- 米国経済は力強い成長を維持しつつも、過熱リスクは抑えられています。
- FRBは金融政策の正常化プロセスを完了し、中立的な金利水準を維持すると予想されます。

ただし、これらの予測はあくまでも楽観シナリオに基づいており、実際の金利動向は経済指標や地政学的リスクなど様々な要因に左右されます。予期せぬショックや市場の期待の変化により、金利予測とは異なる展開となる可能性もあることに注意が必要です。

資料：Claude3 より筆者作成

次いで今後の悲観シナリオにもとづく米国金利の予測を行うため、はじめにAIを活用して悲観シナリオの作成を行った（図表 4）。

図表 4 AI が作成した 2024 年の悲観シナリオ

地政学的緊張の激化

2024年は、地政学的な緊張がさらに激化する可能性があります。特に中東情勢は、イスラエルとハマスの戦闘が地域紛争へとエスカレートする瀬戸際にあり、紛争が拡大すれば石油輸送は途絶え、世界経済成長が鈍化するほか、再びインフレが進行する恐れがあります¹⁶。また、イエメンの親イラン武装組織フーシ派の拠点を米英軍が空爆してから、地域の緊張は高まっており、レバノンの親イラン民兵組織ヒズボラとイスラエル軍との国境付近での交戦が連日続いています¹⁶。

米国の政治的不確実性

11月の米大統領選挙を経て、トランプ前大統領が返り咲きを果たすというリスクも存在します。トランプ氏が勝利した場合、輸入品への追加関税や、特に中国製品に対する厳しい対応をちらつかせることが予想され、国際的な秩序をかき乱す新たな要素になる可能性があります¹⁸。

経済成長の鈍化

ドイツのIFO経済研究所は、2024年の経済成長予測を再び下方修正し、ドイツの経済成長率は0.7%となる見通しを示しています¹⁷。これは、連邦予算案の修正が必要になり、先行き不透明感が増したことが理由です。また、IMFは2024年の世界の実質経済成長率を前年並みの3.1%とし、23年10月の前回予測から0.2ポイント引き上げたものの、景気を失速させずに物価上昇率を下げるソフトランディングへの道筋がみえたとはいえ、リスクは依然として存在します¹²。

インフレの再燃

中東の紛争拡大が原油価格と航路を直撃すれば、世界経済に再びインフレが進行する恐れがあります。また、米国のインフレ上振れで政策転換が停止し、市場の期待に冷水を浴びせる可能性もあります¹⁶。

テクノロジーと経済安全保障の脅威

先端技術開発と経済安全保障の問題が絡み合い、国際情勢に重要な影響をもつ選挙が各国・地域で相次ぎます。特に、米国の金融政策は景気抑制的な水準から緩和に向かう可能性があります。これが市場に安心感を与える一方で、技術漏洩やAI利用による弊害を防止するためのルール作りが継続的に推進されることで、ビジネス上の留意点が増加します¹¹。

総括

これらの悲観的なシナリオが現実のものとなれば、2024年の世界は経済的にも政治的にも不安定な一年となる可能性が高いです。地政学的なリスクの高まり、経済成長の鈍化、インフレの再燃、テクノロジーと経済安全保障の脅威が絡み合い、世界経済に大きな影響を与えることが懸念されます。

資料：perplexity より筆者作成

このAIが作成した2024年度の地政学的緊張の激化、米国の政治的不確実性、経済成長の鈍化、インフレの再燃、テクノロジーと経済安全保障の脅威に関する悲観シナリオを改めて読み込ませたうえで、「悲観シナリオにもとづき2024年6月末、9月末、12月末の米国金利データを予測してください」と指示したところ、AIは、前提条件として「予測はあくまでも悲観シナリオに基づいており、実際の金利動向は様々な要因に左右されます。地政学的リスクの顕在化や予期せぬ経済ショックなどにより、金利予測とは大きく異なる展開となる可能性もあることに留意が必要です。また、こうした高金利環境が長期化した場合、経済活動への悪影響が懸念され、最悪の場合は金融危機につながるリスクもはらんでいます」とし、2024年6月末5.50%-5.

75%、2024年9月末5.75%-6.00%、2024年12月末6.00%-6.25%という予測を算出した（図表5）。

図表5 AIが悲観シナリオにもとづき米国金利を予測する様子

2024年の世界経済の悲観シナリオに基づき、米国の政策金利（フェデラルファンド金利）の予測を以下の通り行いました。

1. 2024年6月末の米国金利予測：5.50% - 5.75%

- 中東情勢の悪化と原油価格の高騰により、インフレ率が再び上昇傾向に転じる可能性があります。
- 米国経済は成長が鈍化し、景気後退のリスクが高まっています。
- FRBはインフレ抑制を最優先課題とし、金利を引き上げざるを得ない状況に直面します。

2. 2024年9月末の米国金利予測：5.75% - 6.00%

- 地政学的リスクの高まりにより、世界経済の不確実性が增大しています。
- 米国の政治的混乱もあり、市場のボラティリティが上昇し、金融市場の不安定さが増しています。
- FRBは物価安定を維持するために、より積極的な金融引き締めを行う可能性があります。

3. 2024年12月末の米国金利予測：6.00% - 6.25%

- インフレ率が高止まりし、物価上昇圧力が根強く残っています。
- 世界経済の成長鈍化が鮮明になり、米国経済も深刻な景気後退に直面するリスクが高まっています。
- FRBは景気よりもインフレ抑制を優先せざるを得ず、金利を歴史的な高水準まで引き上げる可能性があります。

ただし、これらの予測はあくまでも悲観シナリオに基づいており、実際の金利動向は様々な要因に左右されます。地政学的リスクの顕在化や予期せぬ経済ショックなどにより、金利予測とは大きく異なる展開となる可能性もあることに留意が必要です。また、こうした高金利環境が長期化した場合、経済活動への悪影響が懸念され、最悪の場合は金融危機につながるリスクもはらんでいます。

資料：Claude より筆者作成

3.AIが考察する米国金利予測と日本経済への影響

AIによる米国金利予測の実験結果は、今後の日本経済にどのような影響をもたらすだろうか。

楽観シナリオでは、2024年末にかけて米国金利が緩やかに低下すると予測された。世界経済が順調に回復し、インフレ圧力が和らぐことで、FRBが利下げに転じるとの見方である。この場合、円高・ドル安が進行し、日本の輸出企業の収益が圧迫される

おそれがある。ただし、原材料価格の下落などを通じて、企業のコスト負担は軽減されるだろう。金利低下による内需の下支えも期待でき、総じて日本経済にとってプラスに働く可能性が高い。

一方、悲観シナリオでは、2024 年末にかけて米国金利が大幅に上昇すると予測された。地政学リスクの高まりや経済の失速、インフレの再燃などを背景に、FRB が積極的な利上げを迫られるとの見方である。この場合、大幅な円安・ドル高が進行し、日本の輸入コストが急激に押し上げられるリスクがある。企業収益の悪化や家計の実質購買力の低下を通じて、日本経済が深刻な打撃を受ける可能性がある。加えて、高金利による金融市場の混乱や、海外からの資金引き揚げも懸念され、日本経済の下振れリスクは大きい。

このように、AI による米国金利予測は、日本経済の先行きを占う上で重要な示唆となる。企業は、為替レートやコスト構造への影響を見極めながら、事業戦略の見直しを迫られるだろう。投資家は、金利変動がもたらす資産価値への影響を注視し、ポートフォリオの調整を検討する必要がある。個人も、ローンの借り換えや資産運用など、金利変動を踏まえた資金計画の再考を求められる。

AI が示す複数のシナリオを参考に、各主体が適切にリスクを管理し、先を見据えた行動をとることが、日本経済の安定的な発展につながるだろう。同時に、AI の予測を鵜呑みにするのではなく、人間の知見と経験にもとづいて批判的に検証することも肝要だ。AI と人間が協働し、より確度の高い未来予測を行うことで、日本経済の不確実性に立ち向かう知恵を養いたい。

AI による金利予測は、そのリスクと機会を事前に把握するうえで、極めて有効なツールとなる。技術の力を活用しつつ、人間の英知を結集して、日本経済の持続的な成長への道筋を描いていくことが求められている。米国金利予測の実験は、AI と人間の協働による新たな経済分析の可能性を示唆しているといえるだろう。